

科目名	ミュージックリテラシー 2							年度	2024
英語科目名	Music Literacy-2							学期	後期
学科・学年	コンサート・イベント科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	原一博		教員の実務経験		有	実務経験の職種		法務関連	
【科目の目的】									
基本的にはコンサート制作に関する知識の習得を主としているコンサート・イベント科の学生に、著作権法の基本的な概要や、音楽業界における音楽著作権ビジネスの仕組みや実務内容、様々な職種が存在や現状のマーケット状況を理解して貰い、就職までに幅広い視野で自らの将来像をイメージし易くする事を目的としている。業界におけるビジネスの流れを理解することにより、就職活動において仕事選びを円滑に進めることができるようになる。また事例を提示した講義展開をすることにより、より実践的な内容を提供できる。スタッフとして守るべき事柄を理解することで、より現場で求められる社会人となれるよう、今の現場で起きている実際の事象を紹介しながら講義を行っていく。									
【科目の概要】									
音楽業界、音楽に関連した職業に就くための知識の幅を広く学習します。アーティストとともに仕事をするうえで、音楽コンテンツ作成の流れやアーティストの仕事の流れの理解を目的とします。									
【到達目標】									
音楽ビジネスにおける様々な業界・職業の存在とその役割、それぞれの関係性を把握すること、自身の考えを表現したり、他者の意見から学ぶコミュニケーション力を身につけることを目標としている。と同時に、音楽業界における様々な職種の、いずれに進むことになっても、その他の職種への理解とリスペクトを持つことができるようになることを目標とする。□ □ □ □ □									
【授業の注意点】									
授業開始時に着席し、空欄のノートとシャープペンの芯が出て、すぐ書ける状態でスタンバイをしておく。音楽をはじめとしてエンタテインメントは社会から生まれるものであることから、世の中の動きなどを知るための努力、授業だけではカバーできないエリアなどは、各自義務感ではなく好奇心として捉える癖をつける。他人の意見を否定せず、いったん自分に取り込んで決定する癖を付けていく。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	著作権の全領域にわたる深い知識と理解を持つ。	著作権の原則を完全に理解し、専門的な議論が可能。	著作権の原則を深く理解し、多様な状況で説明可能。	著作権の基本原則を理解し、簡単な例で説明可能。	著作権の基本概念を認識しているが、深い理解には至らず。				
到達目標 B	あらゆる著作権侵害を識別し、高度な法的知識を適用。	著作権侵害の複雑なケースを容易に識別し、法的側面を詳解。	著作権侵害の複雑な事例を正確に識別し、影響を詳述。	一般的な著作権侵害の事例を識別し、その影響を理解。	著作権侵害の一部の例を識別できるが、全体的な理解が不足。				
到達目標 C	ライセンスと契約に関する専門的な知識を活用し、複雑な状況を解決。	ライセンスと契約に関する高度な知識を持ち、専門的な応用が可能。	ライセンス取得と契約の詳細を把握し、様々な状況に適用。	ライセンス取得と契約の基本を理解し、簡単な応用が可能。	ライセンスの基礎知識があるが、実際の応用には不安定。				
到達目標 D	実践的なシナリオにおける著作権法の適用において高度な技能を示す。	実践的なシナリオにおける著作権法の応用に非常に熟練。	実践的なシナリオでの著作権法の適用に熟練している。	基本的なシナリオで著作権法を適用する能力がある。	実践的な応用が初歩的で、具体的なシナリオへの適用に困難。				
到達目標 E	国際的な著作権法と最新動向に関して、専門家レベルの深い知識と理解を持つ。	最新動向と国際的な著作権法に関する専門的な知識が豊富。	国際的な著作権法と最新動向について深い理解を持つ。	国際的な視点と最新動向について一般的な知識がある。	最新動向について基本的な知識があるが、詳細な理解には不足。				
【教科書】									
毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
* 試験と課題を総合的に評価する。 * 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。									
※種別は講義。実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ミュージックリテラシー 2				年度	2024
英語表記		Music Literacy-2				学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	自己紹介/著作権とは何か？	講師と学生の自己紹介、著作権の基礎理解	1	自己紹介	講師と学生相互の理解	1	
			2	著作権の定義	著作権の基本概念の理解		
			3	著作権の歴史	著作権の歴史的背景の把握		
2	著作物にはどんな種類がある？	著作物の種類と特徴の理解	1	文学作品	各種著作物の特徴の理解	1	
			2	音楽作品	音楽作品の著作権に特化した理解		
			3	美術作品	美術作品の著作権の理解		
3	前回の具体的な事案に関するQ&A	実際の事例を通じた著作権理解の深化	1	事例紹介	具体的事例からの学び	1	
			2	学生からの質問への返答	質問を通じた理解の深化		
			3	事例分析	事例分析能力の向上		
4	著作者にはどんな権利がある？	著作者の権利の全体像の把握	1	著作者の権利	著作者権の基本理解	1	
			2	権利の範囲	権利の範囲の明確化		
			3	権利侵害	権利侵害の事例理解		
5	前回の具体的な事案に関するQ&A	実際の事例を通じた著作権理解の深化	1	事例紹介	具体的事例からの学び	1	
			2	学生からの質問への返答	質問を通じた理解の深化		
			3	事例分析	事例分析能力の向上		
6	著作権の保護期間とは？	著作権の保護期間の理解	1	保護期間の定義	保護期間の基本原則の理解	1	
			2	期間の計算	保護期間の計算方法の習得		
			3	例外規定	例外規定の理解		
7	著作隣接権とは？	著作隣接権の基本的な理解	1	隣接権の定義	隣接権の概念の把握	1	
			2	保護対象	保護される対象の理解		
			3	権利内容	隣接権者の権利の理解		
8	前回の具体的な事案に関するQ&A	実際の事例を通じた著作権理解の深化	1	事例紹介	具体的事例からの学び	1	
			2	学生からの質問への返答	質問を通じた理解の深化		
			3	事例分析	事例分析能力の向上		
9	外国の著作物の保護は？Q&A	国際的な著作権保護の枠組みの理解	1	国際条約	国際著作権法の基本原則の理解	1	
			2	外国著作物	外国著作物保護の仕組みの理解		
			3	適用法	国際的な著作権問題の認識		
10	著作物が自由に使える場合は？ ①	著作権の制約と例外の基本理解	1	引用	引用に関する基本ルールを理解	1	
			2	教育目的	教育目的での使用に関する理解		
			3	非営利無償無報酬	非営利無償無報酬での使用に関する理解		
11	著作物が自由に使える場合は？ ②	著作権の例外の深い理解	1	パロディ	パロディの法的基準の理解	1	
			2	研究目的	研究目的での使用における条件の理解		
			3	私的使用	私的使用の範囲の明確化		
12	著作物が自由に使える場合は？ ③	著作権の例外の詳細な理解	1	時事ニュース	時事ニュース利用の条件の理解	1	
			2	障害者向け	障害者向け利用の法的枠組みの理解		
			3	その他例外	その他の例外規定の把握		
13	著作物を無断で使うと？Q&A	著作権侵害の結果と対応の理解	1	侵害の種類	著作権侵害の具体的な事例の理解	1	
			2	法的対応	法的対応手段の把握		
			3	損害賠償	損害賠償の基準の理解		
14	半年間の総括	半年間の学習内容の総括と理解の確認	1	内容総括	半年間の学習内容の再確認	1	
			2	重要ポイント	重要ポイントの復習		
			3	学生からの質問への返答	学習内容の理解度の確認		
15	定期テスト対策回	定期テストの準備と復習	1	テスト範囲確認	テスト範囲の明確化	1	
			2	重点項目	重点項目の徹底理解		
			3	模擬問題	模擬問題を通じた実践力の強化		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等